

## 国宝 姫路城

朝一番で姫路城に行った。天守閣と3つの小天守、これらを結ぶ渡櫓が国宝に指定されている。姫路城は1993年に法隆寺地域の仏教建築物とともに、わが国で初めて世界文化遺産に登録された。白漆喰で塗り固められた外観から「白鷺城」とも呼ばれるだけあり、威風堂々とした名城であり、どこか気品が感じられる。



姫路城は長い歴史の中で奇跡的に生き残り、数多くの建物が築城当時のまま残されている。美しい姿とともに、鉄壁の城砦としても知られ、場内は迷路のようになっている。天守閣近くに行く



までにも、あんがい距離があった。天守閣は外観5層、内部は地上6階地下1階である。薄暗い急な階段をのぼり最上階にあがった。広い大手前通りの正面には、JR 姫路駅を見ることができた。腰痛持ちの身には、急な下りの階段の方がこたえる。



昨年10月から姫路城大天守の保存修理工事が開始された。1964年に完了した解体復元工事から45年が経過し、痛みや汚れが激しくなってきたことによる。この4月12日からは大天守を覆う素屋根の建設工事に入り、当分の間はのぼれなくなる。城内は桜の名所としても知られる。今後5年間は大天守と桜のツーショットを楽しめなくなるので、1時間早く開城したり、入城制限を行うほどの賑わいという。「平成の大修理」を終えた頃に、再び姫路城を訪れたい。

(2010年3月21日 記)